

その他	会計名	一般会計
	補正額	△1,800万円
	総額	68億6,200万円
	内容 (新規)	○企業版ふるさと納税事業 ○岩城診療所設備整備事業 ○弓削小学校給食センターボイラー更新工事

■上島町国民健康保険税条例の一部を改正する条例 国保財政の安定化及び制度の維持を図るとともに、被保険者間の公平性の観点から同条件・同保険税負担とするため、保険税水準の県内統一に向けた保険税率の設定に伴い、関係規定を整備する必要があります。 — 原案可決 —	■上島町人権擁護委員の選任について 本町の区域に置かれている人権擁護委員が、令和8年6月30日をもって任期満了となるため、候補者を推薦することについて、議会の意見を求めるもの。 魚島地区 東 喜美子 — 同意 — 生名地区 大本 一明 — 同意 —	■事業契約の締結について 上島町弓削小学校屋内運動場空調設備等設置について設計、施工及び施工監理を一括して実施する事業契約を締結するため、地方自治法第96条第1項第5号並びに上島町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定によるもの。 随意契約 793.1万円 山陰酸素工業 株式会社 — 原案可決 —	■報告事項第1号 地方自治法施行令第146条第2項の規定により、令和7年度繰越明許費繰越計算書を報告。 ■報告事項第2号 地方公営企業法第26条第3項の規定により、令和7年度上島町下水道事業会計予算繰越計算書を報告。 ■報告事項第3号 第三セクター経営状況について、地方自治法第243条の3第2項の規定により報告。
--	--	---	---

令和8年第2回定例会 6月17日開催 上村町長の行政報告 みなさん おはようございます。 6月には早くも台風が日本に上陸し、四国は平年より早い梅雨入り宣言となりました。 本日は令和8年第2回定例会を招集いたしましたところ、全員の出席をいただきましたがとうございませす。4年に一度のサッカーワールドカップが始まりましたので、寝不足気味の方がいらっしゃるかもしれませんが、本日はよろしく願っています。 3月定例会後の行政活動内容や資料についての詳細は時間の関係上、上島町ホームページ内の町長活動報告に代えさせていただきます、この場においては主な事項のみを報告させていただきます。 桜との思い出が重なる季節には、3月13日の弓削商船高等専門学校を皮切りに、各保育園・小学校・中学校・弓削高校などの卒業式や入学式に出席させていただきました。 離島留学においても、今年度は魚島小中学校「さざなみ留学」に10名の入学があり、弓削高校では「ゆめ	生涯学習課 曽根 大地
--	--------------------

しま寮」に10名、ゆめしま寮以外に2名、留学生にカウントしていない因島からは3名、生口島から1名、県内の伊予市から1名と、北海道から兵庫県まで全国から大切なお子様をお迎えしました。 子ども達の笑顔を見ると、離島留学の意義は留学生のためではなく、「元気」と「情熱」と「生きがい」を与えてくれる、私たちへの贈り物ではないかと感じています。 改めて、地元の子ども達にも新しい風を送り込む、この留学制度を支えていただいている全ての皆さまに感謝申し上げます。 3月1日の出初式には来賓をはじめ小さな子ども達の参加があり、3月8日には、ゆめしま海道いきな馬拉ソンに町内外から多くのお客様をお迎えしました。 3月15日、東広島市福富町において第22回アークの森植林交流会が開催され、上島町民41名の参加がありました。 東広島市の尾村産業部長をはじめ、福富町のすいすい倶楽部の皆さまからの歓迎を受け、青空のもと鍬やスコップで穴を掘り、合計50本の桜やツツジを植樹してまいりました。 上島町民の命の水を涵養していただいている福富町や関係者の皆さまに、重ねて感謝申し上げます。	生涯学習課 曽根 大地
---	--------------------

双葉俳壇二〇二一回句集【岩城】

油虫ただ一匹に大騒ぎ 田中 華丘
 これなあに息子の視線に苔の花 森崎 阿里
 吾が倉庫二種のゴキブリ共生す 幸本 郁夫
 躊躇の水のひびきや苔の花 山元 征子
 無住寺を守りて幾年苔の花 美濃部妃苗

令和九年歌会始のお題

お題は「旅」ですが、歌に詠む場合は「旅」の文字が詠み込まれていれはよく、「旅路」、「旅籠」、「旅愁」のよ
 うな熟語にしても、差し支えありません。

◆詠進歌はお題を詠み込んだ自作の短歌で一人一首とし、未発表のものに限ります。

詠進歌の詠進要領

◆書式 用紙は半紙とし、記載事項は全て毛筆で自筆してください。
 (書式図参照)
 ◆期間 9月30日(水)まで(消印有効)
 ◆宛先 〒100-8111 宮内庁
 ※封筒に「詠進歌」と記載

書式図(半紙横長)

お題「旅」
 (山折り)
 〒住所
 電話番号
 氏名
 生年月日
 職業

詳細はこちら ▶

かみじま郷土話 38 生名島出身の医師 村上 純祥

先日、日本医師学会に所属されている方より、生名島出身の医師である村上純祥を研究対象とした論文をご寄贈いただきました。

村上純祥については、過去の『広報かみじま』(2011年3月号)において、生名島の郷土史家である村上貢氏が「孤島からも先駆的な医師村上純祥が…」と題して紹介されています。

村上純祥は、安政4年(1857年)7月1日に生名島に生まれ、東京帝国大学医学部を卒業後、明治19年(1886年)に医術開業免許を取得。その後、広島県尾道市土堂町にて村上医院を開業しました。村上

純祥の著書『看病人』は、西洋書の翻訳書ではなく、当時の日本人では少なかった、日本人による日本人のための家庭医学書であったようです。また村上純祥は明治35年(1902年)に、故郷の生名村に「奨学金寄附願」を提出し、500円(当時はお米15kgで1円くらいでしょうか)の大金を寄付しています。『生名村誌』によると、この奨学金は、学生への就学用具の給与や、中学校や商船学校などへ入学するための学資に乏しい者への扶助を目的としたもので、愛媛県下ではもっとも早い奨学制度だったのではないかと記されています。



村上純祥 出典：村上純祥著『飯のあちはひ』大正13年発行



生涯学習課 曽根 大地